

---

# 君は　　が好きですか

近江駆琉

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

君は　が好きですか

### 【Zマーク】

Z1518Q

### 【作者名】

近江駆琉

### 【あらすじ】

君は　が好きですか？Ans・好きですが、それは親愛の情です。じゃあ、どうして君はそんなに愛しいのですか？Ans・別に愛しくなんてないけど…軽く読めるHitoritostoryです。

## 始まりから彼は畠田

畠田は無こと、こつもれいゆつてこた。

いや、やひじやな。

畠田は無べとこくつかなが正確だ。

「准里ジョンリつてこくつかな？」

「じゅー…こくつかな？」

ふかふかの羽毛布団ヒモウブンへまつてこむと、へりと端エンドにまくらへり  
れて覗スルこられた。

いたずらっぽく笑うその唇ヒンがセクシーで好きだ。あと、布団をつま  
んでいる2本の指も割と好み。

わつわつめで無我夢中ムカムクシーツをかぶっていた指だ。

「じゅー…こくつかな？」

「かへつつか」

「なみせん」

「こつまでもあぐつてゐな。寒い……」

別にこの部屋の室温は低くないのだが、あつたまつた布団に比べたら  
らどこも寒い。

掘まれていた布団を引っ張ると簡単にもとの暗闇と、ぬくもりが手  
に入った。

「しょうがなにな。私も、もつちよつと寝ちゃおつ  
「ひおやけ」と寝た。

「あつや、おいで」

まだ乾ききらない肌が近寄つてくるのに気が付いて、腕を広げて彼女の  
身体を抱きしめた。

「うわ…身体冷えてるし」

「じゃあ、またあつためて？」

「やだ

ちゅつ、と身体に触れる唇を離して皿をつむると、くすくすと  
少し笑われた。

これが、今日の始まり始まり。



「とりあえず彼は寝起きでも自由です

誰かが俺の身体に触れる感触に、少し辟易して寝返りを打った。そういえば、抱きしめていた身体はもうない。

でも、違う。今俺に触れてるのは昨夜肌を合わせた女じゃない。

「んー…触んなよ。俺、もうたた…」

「～～～～～」の馬鹿つ～～ふざけた事言つてないで起きなさい～～～

とつあえず相手がだれかなんてどうでもいいけど、もう頑張れない。

くじゅっと髪をかき乱すその手を握つて、手のひらにキスをすると降ってきたのは大きな怒声、いくら俺でも臉が自然と上がった。

「…レイラ～まだ時間じゃないだろ？」

「もつもつ、今日から標準時が変わるって昨日言つたじゃない。まあ、起きなさい～～～～～つて、い、いやあ～～～～」

「ううん、そんなこと言つてな。だとしたらまだ俺は十分に眠つていなのはずだ。そう結論づけて再び瞼を下ろしたの」レイラは俺の布団を剥ぎ取つて、悲鳴を上げた。

「やだやだっ、なんで…なんで准里、裸なのー？信じられない、露  
出狂！！」

「…そりゃ思ひならその抱えてる布団を返してくれるか、そこにある  
服を取ってくれ」

シテ、抱いて寝たら裸なのは当然だし、布団を剥いだのもレイラだ  
し、その布団をきつく抱きしめて離さずに、俺の裸体を見ているの  
もレイラ自身なのに。

俺が変態呼ばわつされるのはおかしくないか。

「どうしたー！ レイラ、准里、なにがあつ…た、って…え？」

「あー、だから服を取ってくれってば」

レイラの激しい悲鳴を聞きつけて、シコツといつ扉の開く機械音と  
ともにマグリスを先頭にぞろぞろと人が駆けこんできた。

しかしみな、部屋に踏み入れたといひで足を止め、田を見開いて絶  
句している。

「！」の場合、変質者になるのはどうだ？……くしゃつ…。」

せめて、俺がレイラに手を出した、という噂が広まらない事を願うばかりだ。

## 説明くらいはきちんとしましょう

第三次世界大戦から幾星霜。‥多分2000年くらい。

人は繰り返す戦争の教訓と、地殻変動による大陸構造の変化に従い國を失つた。

つまり、世界は地球という一つの国となつたのだ。

ついでに前回は6つあつた大陸も今では巨大な大陸が一つあるだけである。

意外にも第四次世界大戦は起こらずに、言語も、人種も入り混じり、平和になつた地球は外へ。宇宙へとハイスピードで手を伸ばしていつた。

まずは月へ。火星へ。フォボス、ダイモスへ。果てはもっと遠くへと

結局そういう星へと移り住んだ人間が地球と異なつた国家を作り、現在の第一次太陽系大戦が始まった。

『歴史は繰り返す』とはよく言ったものだ。

「あんまり准里が焦らすからだよー？」

大騒ぎするレイラやマグリスを部屋から追い出し、仕方なく睡眠を欲する身体をなだめて俺は支度を整えた。

2ヶ月の航宙<sup>こうくう</sup>の末、俺の乗る居住艦「O-113」は月へ寄港する。よつて今日からこの艦は標準時刻を月時間に変更したのだつた。

そのため今夜は3時間ほど少なくなり、従来なら現在時刻は5時なのに、時計は全て8時を示している。

「あつ、准里だ！ねえねえ、准理、レイラ姉さんご襲われたんでしょう？」

「ああ？ また変な噂になつてるな」

眠い眼をこすりながら食堂に入ると、ちょこまかとませた子供達がすぐさまかつてきた。ぐるりと見渡すと離れたところで困つたようマグリスが頭をかいていた。

「あんまり口ばかり達者なこいつに、騒ぎをつまべ説明できなかつたらしく。

「やつやつ、あーゆータイプに難しい駄け引きはだめだつて……」

「いい加減にしろ。そつこつ」と言つてから、お前ひねお子様なんだよ」

イエス、と答えるのもノー、といつのも噂に拍車をかけるだけ。ちびたちを放つて俺はマグリスに向かいに座つた。

「せつときは悪かったな。朝食は？」

「入らない。寝たい」

「時差ボケか？珍しいな」

「違う。今日から時間変わるの忘れてシテたから」

もつずつと宇宙船内で暮らしているの俺にとって、時間の調整など当然の事だ。今既にのは実質眠っていたのは2時間程度だから。

しかし、この艦の艦長という立場上、寄港の際の手続きは俺がしなければならない。

「お前もよくやるな……そつこねば、この後はどうに行くんだ？」

「前線」

「はあー？お前、なんで？今お前がいるのは中立国だろ？」

「その契約もこれで終わりだから。次は北翼軍側の国と契約してゐる」

太陽系大戦、と言つても戦争を全ての国が戦争状態にあるわけではない。約半分の国は我関せず、という中立の立場であり、残りの半分が北翼軍と南翼軍に別れて戦つているのだ。

10年以上続いているこの戦争も、すでに大義などなくしている。

「なんでもまた戦争になんていくんだ…」

「ああ、円との交信の時間だ。じゃあな、マグリスト

「おー、話はまだ終わってない…」

「でも、時間もない」

「じーじー」と田をこすつてみると、相変わらず照明はすぐそばに浮かんでくる月より黄色かった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1518q/>

---

君は　　が好きですか

2011年1月16日08時45分発行